

§3 時間は実在するのか? (その2)

【前回の復習】

マクタガートの論証ステップ

- ステップ1: 時間の捉え方には、A系列とB系列の二種類ある。
- ステップ2: B系列だけでは、時間をとらえるのに不十分である。
- ステップ3: A系列が、時間にとって本質的である
- ステップ4: A系列は、矛盾している。
- ゴール : 時間は実在しない。

【前回の補足】

質問1: 「親子関係は、推移的ではないので、B系列では説明できないのか?」

時間的な前後関係をもつ二項関係であっても、推移性をもつとはかぎらない。たとえば、 $R a b$ を「 a は b の10秒前に起きた」という二項関係だとするとき、 $(R a b \& R b c) \rightarrow R a c$ は成り立たない。親子関係も同様であり、時間的な前後関係を含んでいるが、推移性を持たない。

質問2: 「もしB系列=C系列+A系列ならば、B系列で変化を説明できるのではないか」

■A系列・B系列・C系列

C系列: 単なる順序関係

B系列: 順序関係+時間的前後関係 (変化と方向): C系列+A系列

C系列とA系列は、他のものから導出されない「究極的」なものである。それに対して、B系列は、「派生的」である。

■質問2 (ないし反論) に答えるためには、 $B=C+A$ を修正する必要がある。

C系列: 恒久的順序関係 (permanence)

B系列: 恒久的順序関係+前後関係(方向): C系列+前後関係 (方向)

A系列: 変化+方向(change and direction)

A+CからBは生じる。しかし、Bでは、変化を説明できない。

「A系列に含まれるこの独特の「動き」は、二通りの仕方で表象できる。一つは、出来事が未来から現在へとやってきて、過去へと過ぎ去っていくという表象 (出来事の去来) であり、もう一つは、「今」「現在」が、過去の方から未来の方へと向かって移動していくという表象 (動く今) である。前者では、出来事の方が「動く」と表象され、後者では、「今」の方が「動く」と表象される。A系列に含まれる「動き」を考えるとときには、大抵この二つの表象が一体化している。」(入不二、p. 84)

■上記の修正の難点

上記のように修正すると、ラッセルの反論にたいする批判を変える必要がある。

ラッセルの見解: 「過去である・現在である・未来である」を「より後」「より前」というB特性によって言い換えられる。たとえば、「ある出来事が未来である」を、そのように意識したり発話したりするという出来事「より後」に出来事Eがある、と言い換える。>

これに対する前回述べた批判: B系列は、C系列とA系列からなるので、B系列でA系列を説明できるが、このことから、<A系列は時間にとって不可欠ではない>は帰結しない。

修正された批判: 上記の説明では、変化を説明できていない。

ステップ4 A系列は矛盾を含む

■A系列の矛盾の指摘

①「過去である」「現在である」「未来である」は出来事に帰属する性質である。

②これら3つは両立不可能である。つまり、「ある出来事が、過去であり、同時に現在である」や「ある出来事が現在であり、同時に未来である」や「ある出来事が未来であり、同時に過去である」、ということは、矛盾している。

「この排他性は、変化にとって、それゆえ時間にとって本質的なものである。」(マクタガート)

③「どの出来事も、それらの特徴をすべて持っていなければならない。もしMという出来事が過去のことであれば、それはかつて現在や未来であったのだし、もしMという出来事が未来のことであれば、それはこれから現在や過去になるのだし、もしMという出来事が現在ならば、それはかつて未来であったことがあり、これから過去になる。このように3つの特性はすべて、一つ一つの出来事に帰属している。」(マクタガート)

未来の出来事は、まだ現在でも、過去でもないのだから、「未来である」という特性しか持っていないかもしれないが、未来において、それは「現在である」や「過去である」という性質を持つことになるだろう。

マクタガートは、ここに矛盾があるという。その矛盾とは、「ある出来事が「過去である」「現在である」「未来である」という両立不可能な性質を持つことである。

■マクタガートへの批判：

あるものが「青い」「黄色い」「赤い」という両立不可能な性質を持つとすれば、矛盾している。しかし、時間が異なっていれば、矛盾しない。これと同じで、時間t1に「未来である」のがt1であり、「現在である」のがt2であり、「過去である」のがt3ならば、矛盾しない。

■マクタガートからの反論1 (循環へ追い込む反論)

(1の1)「反論者は、B系列的な「時間」の観念を使うことによって「矛盾」を解消している。しかし、B系列的な時間が成立するためには、A系列が必要不可欠であった。A系列+C系列=B系列であったことを思い出そう」(入不二、p.127)

もしA系列+C系列=B系列が正しいとすると、B系列の成立を仮定することは、A系列の成立を仮定することである。したがって、B系列を仮定して、A系列が矛盾なく考えられることを示しても、循環論法にしかならない。

(1の2)あるいは、B系列ではなくて、「今」「かつて」を使って、

出来事Aは、今「現在である」

出来事Aは、かつて「過去であった」

というように矛盾を解消しても、これは、A系列を用いて、A系列が矛盾なく考えられることを論証することである。ゆえに、循環論証である。

■マクタガートの反論2 (無限後退へ追い込む反論) (省略します。)

■マクタガートの結論

「こうしてA系列の実在性(という仮定)は、矛盾という結果になってしまうので、斥けられなければならない。そして、変化と時間がA系列を必要とすることは分かっているのだから、変化と時間の実在性も却下しなければならない。同様に、B系列は時間を必要とするので、B系列の実在性も却下しなければならない。ほんとうは、何ものも、現在でも過去でも未来でもない。ほんとうは、何ものも、他のものより前であったり、後であったり、時間的に同時であったりなどしない。本当は何ものも変化しない。ほんとうは、なにものも時間の内にはない。我々が何かを時間の内で知覚するときは常に——それしか、自らの現在の経験の中で、我々がものを実際に知覚するやり方はないのだが——、我々は、多かれ少なかれ、実在の姿とは違う仕方でものを知覚しているのである。」(マクタガート『存在の本性』の孫引き、入不二、p.139)

「結論はこうなる。時間全体も、A系列とB系列も実在しない。しかし、C系列が正に実在するという可能性が残されていることになる。A系列は、その不整合ゆえに退けられ、A系列を却下することには、B系列を却

下することが含まれた。しかし、C系列には、そのような矛盾は見つかっていないし、A系列の無効性からは、C系列の無効性は出てこない。」(マクタガート「時間の非実在性」の孫引き、入不二、p. 155)

付録 McTaggart, 'Unreality of Time' から

“Positions in time, as time appears to us *prima facie*, are distinguished in two ways. Each position is Earlier than some, and Later than some, of the other positions. And each position is either Past, Present, or Future. The distinctions of the former class are permanent, while those of the latter are not. If M is ever earlier than N, it is always earlier. But an event, which is now present, was future and will be past.”

“For the sake of brevity I shall speak of the series of positions running from the far past through the near past to the present, and then from the present to the near future and the far future, as the A series. The series of positions which runs from earlier to later I shall call the B series. The contents of a position in time are called events. The contents of a single position are admitted to be properly called a plurality of events. (I believe, however, that they can as truly, though not *more* truly, be called a single event. This view is not universally accepted, and it is not necessary for my argument.) A position in time is called a moment.”

“The C series, however, is as ultimate as the A series. We cannot get it out of anything else. That the units of time do form a series, the relations of which are permanent, is as ultimate as the fact that each of them is present, past, or future. And this ultimate fact is essential to time. For it is admitted that it is essential to time that each moment of it shall either be earlier or later than any other moment; and these relations are permanent. And this -- the B series -- cannot be got out of the A series alone. It is only when the A series, which gives change and direction, is combined with the C series, which gives permanence, that the B series can arise.”

